

国語総合の傾向

はじめに

医療の専門家を目指して当大学への入学を希望されている皆さんは、いずれ医療専門職となって社会の様々な問題を抱えながら生活している人々とうまくコミュニケーションをとることが必要となります。そのためには、現代社会における人々のあり方を論じた文章を数多く読んで内容を理解し、それに対する自分の考えを持つことが大切です。筆記試験では、内容の読解までにとどめていますが、日本語を正確に読み、正確に書くことは大学での学習のスタートラインです。

傾向

- 1 マークシート方式による選択式です。
- 2 現代文2題で、その内訳は評論2題または評論・随筆各1題です。

1問目の評論文の問題は科学・歴史・心理・哲学・文化など幅広いジャンルから出題される、やや硬質な文章で、内容把握が中心です。2問目の評論文または随筆文の問題は1問目よりやや柔らかめの文章で、内容把握のほか、さまざまな国語の知識が問われます。いずれの問題も高校の教科書レベルの文章が出題されます。
- 3 漢字の読み書きは必須で、語意、四字熟語・ことわざなどの知識問題も頻出しています。また読解問題は空欄補充、欠文補充、指示内容、内容説明、理由説明などの部分読解問題と全体読解問題（筆者の主張、内容一致など）に分かれます。
- 4 たとえ易しい印象を与える評論文であっても、受験生には馴染みのない評論キーワードが文中では使用されていますから、市販の入試問題集を解いたり、新聞や新書などを読んだりして、論理的、抽象的な文章に慣れておく必要があります。
- 5 本文の分量も少なく、選択肢の長さも短いので、取り組みやすい問題です。

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一九五七年に人類がはじめて人工衛星を打ち上げてから半世紀あまり。いまや地球の周りには三千個以上の人工衛星が周回し、探査機が六〇億キロメートルも離れた小惑星から試料を採取して地球にキ^aカンするまでとなった。まさにこれから宇宙という未知の世界も、次々と人類が^bトウハしていくに違いない。そして科学が地球上の物質や生命に関するさまざまな謎を解き明かしていくように、宇宙についてもその誕生から未来、そして終焉^{しゆうえん}まで解き明かすだろう——それが現代人のおおかたの考えではないだろうか。

たしかに現代の科学にとって不可能なことはないと思えるほど、その知識とそこから生まれた技術力は圧倒的である。もはや宇宙に限らず世界のあらゆる分野を科学的知見が支配し、動かしている。鉄道に自動車、そして航空機などさまざまな移動手段の発明はもちろん、電話やインターネットなどの通信技術、食品や衣料、生活用品などの大量生産、難病やシン^cコクな外傷に対する医療技術など、かつては夢のように思われていたことを科学は次々と実現しているのである。

ゆえにこの宇宙の謎についても、かつての神話や宗教書で語られた天地創造の^Aなどもはや誰も信じないだろう。もしいたとしても、熱心な宗教者などきわめて限られた人間だけである。宇宙の誕生やその全体像について、より精確で、かつ正しい知識をもたらしてくれるのは科学であるというのが現代人の^Bである。

しかしはたして本当に⁽¹⁾そうなのだろうか。科学は絶対に正しく、この世界の真実を明らかにしてくれるのだろうか。神話や宗教が支配していた時代よりも、われわれは正しい世界観を持っていると本当に言えるのだろうか。

たとえばかつて多くの古代人は地球が平らで、海の果ては断崖絶壁でそこからは海水が滝のように下へ流れ落ちていると考えていた。まだ水平線の向こうまで航海できる巨大な船も飛行機もなく、小舟でせいぜい入江の外に出て魚を獲^とるぐらいしかできない彼らにとって、そのような世界像を描くことはきわめて当然のことであった。しかし海を眺めながらそのような世界像を描くことしかできなかった彼らと、われわれ現代人とは⁽²⁾いっただいどこがどう異なるのだろうか。

まず彼らも身近で起きるこの世界のさまざまな^Cを観察しながら、何かしら普遍的な法則を見いだそうとした。たとえば彼らが生活用水を貯めておくために作った大きな瓶^{かみ}には、川や泉から汲^くんできた水がいつも貯められていたのだが、雨が降るたびにその水は瓶から溢^{あふ}れ出し、地面へと流れ落ちていった。このとき彼らは、

「水が満たされた瓶にさらに水が注がれると、その瓶の外側へと水は溢れ出す」

という法則を見いだしたはずである。現代人にとってはごく当たり前のこの現象も、人類の幼年期にある彼らにとってはじつにシン^dセンであり、驚くべきものであったのだ。現代人からすればきわめて単純な法則ではあるが、しかし子供のような眼で世界をはじめ眺めた彼らにとっては、このことは一つの偉大な発見であったに違いない。

そして彼らはこの法則を、こんどははるかに膨大な量の水（海水）が貯まっている瓶、すなわち海へと応用したのである。つまりこの海という巨大な瓶に大量の雨が降り注いでも、水嵩みずかさが増えて陸地に海水が押し寄せることがないのは、この瓶の外側、すなわちあの水平線の向こう側へと溢れた海水がどんどん流れ落ちていくからではないのか。ゆえに海の果てはきつと瓶の縁と同じように切り立った断崖であり、だからこそ海水は雨がどれほど降ろうとも陸地に押し寄せることはないのだ、と。そしてその推測を裏付けるように、沖へと流されていった木はやがて水平線の向こうに消え、二度と戻ってくることはないか、と。

もちろん⁽³⁾これはあくまでも想像にすぎないのだが、しかし古代人の思考の流れは基本的にこのようなものだったろう。つまり彼らは身近な現象から見いだした法則を、こんどは世界全体へと拡大解釈していくことによって、その世界像を作り上げていったのである。

そしてたしかにその結果得られた古代人の世界像は、現代のわれわれからすればとんでもない誤りである。⁽⁴⁾お伽噺とがばなしのように笑うべきものである。しかし、ではわれわれ現代人が手にしている世界像と比べてみると、いったい何がどう違うというのだろうか。

たしかにわれわれは海の果てが断崖絶壁などとは思わない。われわれは地球が丸いことを知っており、その姿は遙か上空の大気圏外からも確認している。そしてこの丸い地球が回転しながら太陽の周りを回り、さらに地球以外にもたくさん惑星が太陽を周回していることも知っている。そしてこのような惑星系が数千億個集まったのが銀河系であり、さらに宇宙にはこの銀河系のような星の集団が無数にあるのだということも知っている。

しかしそのような知識を持ちながらも、われわれはこの宇宙の果てまでを完全に見通しているわけではない。とりあえず科学はいまのところ宇宙の大きさを七八〇億光年以上と見積もっているらしいが、これとでもどこまで真実か疑わしい。何故なぜならば、いかに高性能な望遠鏡といえどもその視野が届く距離には限界があるし、そのような望遠鏡も含め他のさまざま、かつ不十分な測定方法を幾つeもツギ足して見積もられたのが、先ほどの宇宙の大きさという数字だからである。ましてやわれわれが宇宙船に乗って宇宙の果てまで（この場合「果て」という概念が通用するかも疑問だが）航行し、その⁽⁵⁾真偽を確認することなどまず不可能であろう。

その意味では、われわれ現代人もあの古代人が海岸から水平線を眺めてその世界像を思い描いていた状況とじつはあまり変わらないのである。われわれもこの地球上から望遠鏡によって得られた光や電波のデータかを掻き集め、それらをやはりわれわれがこれまで地球上で観察してきた現象から得られた幾つかの **D** が、この宇宙全体にも普あまねく通用するものとの「前提のもとに」それに当てはめてみて、その結果から導きだされた宇宙像を

とりあえず「正しいもの」としているにすぎないのである。つまり水平線を眺めていた古代人の眼が、多少先まで見通すことのできる望遠鏡に成り代わっただけであり、瓶から溢れてこぼれ落ちる水を見て得た法則が、この地球上におけるさまざまな **E** によって得られた最新の物理法則に取って代わられただけのことなのである、と。

つまりわれわれがいま手にしている ^(注) ビッグバンという世界像も、科学者が現代の物理法則にさまざまな宇宙からの観測データを当てはめ、宇宙全体の姿というものを拡大解釈していったとき、この解釈が破綻してしまう地点(時間)を宇宙の始まりとしているにすぎない。古代人がその視野の途絶える地点、すなわち水平線をこの世界の果てと考えたのと同様に、現代の科学者もわれわれの ⁽⁶⁾ 経験と法則が破綻する地点をこの世界の始点、すなわちビッグバンとしているにすぎないのである。古代人の視野の限界、水平線が、現代人にとっての視野の限界、すなわちビッグバンなのである。

(三好由紀彦『哲学のメガネ 哲学の眼で〈世界〉を見るための7つの授業』河出書房新社による)

(注) ビッグバン＝宇宙創成期に生じたと想定されている大爆発。これが時空間、そして一切の物質生成の契機になったと仮定されている

問(一) 傍線部 a ～ e のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a = **1** b = **2** c = **3** d = **4** e = **5**

- a キカ|ン
- | | | | | |
|------------|-------------|------------|-----------|--------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 規制をカ ンワする。 | インカ ンを登録する。 | イカ ンの意を表す。 | カ ンレキを祝う。 | 水がジュ ンカ ンする。 |

b
トウハ

- 1 前例をトウシユウする。
- 2 有望な会社にトウシする。
- 3 アイトウの意を表する。
- 4 犯人がトウソウする。
- 5 シユウトウに準備する。

c
シンコク

- 1 表現がコクジする。
- 2 シツコクの闇。
- 3 上司にホウコクする。
- 4 美しいケイコクを眺める。
- 5 寝坊してチコクする。

d
シンセン

- 1 赤くソまる。
- 2 色がアザやかだ。
- 3 将来をウラナう。
- 4 この川はアサイ。
- 5 人をウラヤむ。

e
ツギ足して

- 1 他社とテイケイする。
- 2 現場からチュウケイで放送する。
- 3 国旗をケイヨウする。
- 4 テンケイ的な冒険小説。
- 5 ケイカイな音楽。

- 問(二) 空欄 A、E を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選んではいけません。)
- A ≡ 6 B ≡ 7 C ≡ 8 D ≡ 9 E ≡ 10
- 1 技術 2 法則 3 物語 4 実験 5 現象 6 常識

問(三) 傍線部(1)「そう」が指示する内容としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 11

- 1 かつて不可能と思われていたことを科学がすべて実現した結果、人間は科学に支配されているということ
- 2 かつての神話や宗教で語られた物語を信じているのは、限られたわずかな人間だけだということ
- 3 圧倒的な技術力をもつ科学は、いまやかつての神話や宗教と同じ力を持つようになったということ
- 4 宇宙の誕生や全体像に関する精確で正しい知見は、科学こそが人間にもたらしているということ
- 5 熱心な宗教者などのきわめて限られた人間だけが、この世界の真実を追い求め続けているということ

問(四) 傍線部(2)「いったいどこがどう異なるのだろうか」という表現についての説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 12

- 1 否定的な疑問表現であり、宗教を信じていた古代人と科学を信じる現代人の差異などに問うに値しないと筆者は考えている。
- 2 反語的な表現であり、世界像を形成する方法については、古代人と現代人の間に本質的な差異はないと筆者は考えている。
- 3 自己の発言に対する懐疑表現であり、古代人と現代人の現象把握の態度を比較しても無駄ではないかと筆者は考えている。
- 4 皮肉を込めた疑問表現であり、古代人と現代人の世界像形成の方法を比較すること自体に無理があると筆者は考えている。
- 5 部分的な疑問表現であり、世界の様々な現象の解釈に関する古代人と現代人との方法の違いを明確にしようと筆者は考えている。

問(五) 傍線部(3)「これ」が指示する内容としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 13

- 1 世界の様々な現象を観察して神話や宗教書に合致する法則に目を付けた古代人が、世界像を生み出していったプロセス
- 2 きわめて幼い思考しかできなかった古代人が、はじめて目にした現象から古代人独自の世界像を作り上げていったプロセス

- 3 水の動きに単純な法則があることに気づいた古代人が、そこから天地創造についての神話を編み出していったプロセス
- 4 神話や宗教に支配されていた古代人が水の動きなどに法則があることを発見し、科学的な思考に目覚めていったプロセス
- 5 身近な水の性質に一つの法則を見出した古代人が、海の果てに断崖絶壁があるという世界像を形成していったプロセス

問(六)

傍線部(4)「お伽噺のように」の「ように」と同じ用法のものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- 1 社長、この件はいかようにいたしましょうか。
- 2 パソコンやスマホの画面を見すぎないように注意しなさい。
- 3 彼は宝くじにでも当たったようにウキウキしている。
- 4 田舎の叔母のように明るくて実直な人はめったにいない。
- 5 彼は今日は元気がなく、どこか具合が悪いように見える。

問(七)

傍線部(5)「真偽」と熟語の構成が同じものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

15

- 1 媒介
- 2 無限
- 3 懷疑
- 4 理性
- 5 是非

問(八)

傍線部(6)「経験と法則が破綻する地点」についての説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

- 1 物理法則に基づいて人間の視野の限界とされた地点
- 2 現代の物理法則と観測データが食い違ってしまう地点
- 3 拡大解釈によって明確にされた宇宙の始まりの地点
- 4 古代人と現代人の視野の限界が一致するような地点
- 5 観測データによって物理法則が拡大解釈されうる地点

問(丸)

本文の内容と合致しないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- 1 現代人は、科学の知見と圧倒的な技術力によって様々な謎が解き明かされるのではないかと考えている。
- 2 古代人と現代人の世界像は異なっているが、世界像が形成されていく筋道に本質的な違いはない。
- 3 科学技術の発展によって視野の拡大した現代人には、古代人の世界像はお伽噺のように見える。
- 4 現代科学の物理法則に従って宇宙の大きさは計算可能と言えるが、それはあくまでも仮説である。
- 5 古代人は、世界の果てに存在する断崖絶壁を現代におけるビッグバンと同じように考えていた。

2 次の文章は、一九七〇年代に書かれた加藤秀俊による「情報時代の自己教育」〔『独学のすすめ』筑摩書房〕の一部である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

日本の大都市の周辺では、テレビの電波が五つか六つ、ラジオもそのくらいある。両方あわせて、合計十いくつかの電波が、われわれのまわりにひしめきあっているのだ。しかし、たとえそのぜんぶがおもしろそうであっても、ひとりの人間がきいたり見たりすることのできるのは、そのひとつでしかない。あるテレビ局である時代劇を見る、ということは、他のテレビ局やラジオ局でまったく同じ時間に放送されている映画やニュースや音楽を見たりきいたりすることができない、ということである。(イ)、算術的にいえば、人間がある任意の時間に接触することのできる放送というのは、潜在的な全情報量の数パーセントにすぎない、ということになる。(1)

それなら、見ることでできなかった番組、きくことでできなかった番組をテープに収録しておいて、あとで再生すればいいではないか、という意見もあるかもしれないけれど、十数局の放送をそれぞれ一時間ずつ収録してそれを再生するということは、十数時間の時間を必要とするということだ。どっちみち、人間の持ち時間というのは有限なので、その十数倍の時間をかけて、あらゆる情報を手にいれるということは、とうていできた相談ではない。(2)

要するに、かつての社会とちがって、現代社会における情報は、その総量からいって、一個人には、とうてい消化しきれないのである。アイザック・ニュートンは、知識を追求する人間のすがたを、大海を目のまえに見ながら、⁽¹⁾砂浜でたわむれている子ども^aのすがたにたとえた。われわれが、「生涯教育」の覚悟をかためて、一生をたえざる勉強のプロセスとして生きつづけることができたとしても、われわれが、^a頭のなかに汲み入れることのできる情報量はかぎられている。いくらいれても、ほとんど底抜けの容量を人間の頭脳はもっているから、いれもののほうは、だいじょうぶだけれども、情報を汲み入れるためのポンプの能力に限界があるのだ。

(ロ)、問題になるのは、情報えらびの問題である。とにかく、全社会的に生産され流通している情報量はやたらに多いのである。人間は、その一部だけ吸収して一生をおえるのであるから、それぞれの人間の人生が充実しているかどうかは、ひとえに、その人間が、どれだけ有効に情報を選択したかにかかっている。じっさい、もしも、人間に優劣があるとするとするならば、それは、先天的な能力の問題ではなく、後天的な情報選択能力にある、とわたしは思う。はやいはなし、いまこうしているこの時間に、テレビのドタバタ喜劇をみてぼんやりとすごしている人もいるだろうし、専門書を読んでいる人もいるだろう。パチンコをしている人もいるし、ボウリングをしている人もいる。家族とおしゃべりしている人もいるし、レコードをきいている人もいる。そのいずれもが、それぞれにじぶんの時間を自由につかっているわけで、どれがよく、どれがわるい、といった価値評価

はむずかしいが、どのような情報にどんなしかたで、^b触れあっているか、が、それぞれの人間の人生をつくっている、という事実をはっきりとお互いにみつめなければならぬだろう。⁽²⁾情報の質が人生の質をきめるのだ。(3)

情報をえらぶことが、人生をえらぶことである、という事情を、わたしは、以上の議論のべてきた。いい情報だけをじょうずに汲みこんだ人の人生は充実しているし、くだらない情報だけを汲みこんだ人の人生は索漠としている。どっちみち、⁽³⁾いちどしか生きない人生なのだから、それは充実したものであるにこしたことはない。できるだけ、いい情報だけをえらんで、じょうずに生きたい——誰でも、そう思うだろう。(4)

しかし、問題は、どうやったら、⁽⁴⁾いい情報だけをじょうずにえらぶことができるか、ということである。

学校生活のなかでは、情報のたしかさを保証してくれる指導者として先生がいる。(ハ)、学生時代はそれでいいとして、社会人としては、いったいどうしたらいいのであろうか。身のまわりを見わたしても、とくに専門家というのはいない。(5)

さしあたりの方法として、われわれはもっと、批評というものに注意をはらってよい。(ニ)いい本を読みたかつたら、新聞、雑誌などの書評欄を丹念に読むことからはじめることである。書評欄には、毎日数十冊というおそるべきスピードでつきからつきへと刊行される新刊書のなかから、目ぼしいものをえらび、それぞれの書物にどんなことが書いてあり、その長所や欠点もきちんと分析して整理されている。書評をする批評家たちは、いわば経験の深い、専門の読書家であるから、その判定はおおむね信頼がおける。ひとりで、まったく予備知識も準備もなしに本屋さんにとびこんで手あたりしだいに本を買いこむにくらべたら、あらかじめ、⁽⁵⁾批評家の意見を読んで、それを参考にするほうが、⁽⁵⁾ずっと危険率はすくない。

じっさい、社会学者のダンカン^aは、現代社会における「批評」の役割は、要するにおびただしい量の情報のなかから、よいものとわるいものとをきつちりとえらび出し、よいものを、一般の読者につたえることにある、といっている。ちょうど、それは、いろんなまじりもののある水を濾過^{ろか}して、まじりものをとり去るフィルターのような役割だ。もちろん、ひとりひとりの読者が、それぞれにたくさん本を読み、よいものともわるいものを選別するというのも、わるいことではないけれど、せっかく、読書についての専門家がいて、そのへんの整理をきつちりしてくれているのであるから、あんまりツムジ曲りの態度はとらずに、すなおに批評家の意見に、^c耳をかたむけるのがいいのではないか。

もとより、批評家のすべてが、つねに公正だとはいえない。批評家も人間であるから、まちがうこともあるし、また、世界じゅうのあらゆる問題について、なにもかも知っているわけではない。だから、あんまり批評家にたより切ってしまうのは考えものだ。だが、目安として、批評というものは、情報選択にあたって、たいへんに役に立つ。

(ホ)、批評家というのは、なにも、専門の職業的批評家にかぎられているわけではない。もっと手近なところにも、すぐれた批評家がたくさ

んいる。(6) それは、友人たちだ。映画についてであれ、あるいは読書についてであれ、友人というのは、しばしば、最良の相談相手である。なにかおもしろい映画はない？ ためになるいい本を知ってない？——そういう問いを友人たちにつけてみたらいい。かならず、誰かが教えてくれるはずである。いや、そうした、情報選択についてすっかりした意見をもっている人間たちこそがよき友人なのである。職業的批評家だの先生だのも案内係りとして、たいへんに有能だけれど、立派な批評家は、友人たちのあいだにもいるはずである。それらの友人たちと、さまざまな情報について、合評会をするのもいいだろうし、書物を主題にして、読書会などをやってみるのもよいだろう。そして、そういう経験をつみかさねることによって、だんだん、人間は、情報についての批判的なものの見方を、身^dにつけてゆくことができる。批判的な見方ができるといことは、批評ができる、ということだ。その批評能力こそ、情報選択の能力の基本なのである。

問(一) 傍線部 a～d の漢字と組み合わせると熟語ができる漢字を、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| a | 頭 | (1) | 錯 | 2 | 角 | 3 | 周 | 4 | 薫 | 5 | 雑 |
| b | 触 | (1) | 装 | 2 | 託 | 3 | 抵 | 4 | 養 | 5 | 傷 |
| c | 耳 | (1) | 加 | 2 | 逐 | 3 | 恵 | 4 | 困 | 5 | 目 |
| d | 身 | (1) | 抱 | 2 | 具 | 3 | 謹 | 4 | 保 | 5 | 信 |

問(二) 空欄(イ)～(ホ)を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選

んではいけません。)

- 1 たとえば 2 なぜなら 3 つまり 4 ところで 5 しかし 6 そこで

問(三) 傍線部(1)「砂浜でたわむれている子ども」の比喩の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 10

- 1 膨大な情報の中から自分に合った情報を選択し、それを巧みに使いこなす人間の姿を表わしている。
- 2 必要な情報を得ようとしても思うように集まらず、なすすべもなく困り果てている人間の姿を表わしている。
- 3 豊富な情報に恵まれているのにいっこうにそれを生かさずとしない、怠惰な人間の姿を表わしている。

- 4 豊富な情報から得た知識をどのように生かしていこうかと、楽しみに計画を練る人間の姿を表わしている。
- 5 膨大な情報を提供されながら、それを知識として吸収しきれない人間の姿を表わしている。

問(四)

傍線部(2)「情報の質が人生の質をきめる」とありますが、具体的にはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 11

- 1 人生を上手に生き抜くために、自分に有利な情報選択をしなければならないということ
- 2 できるだけ多くの情報を吸収した方が、より中身の濃い人生を送ることができるということ
- 3 情報選択にばかり気を遣って他の事がなおざりになると、中身の少ない人生を送ることになるということ
- 4 多くの情報の中でも特に趣味や教養に関する情報が、人生を豊かにすることができるということ
- 5 人生の充実度はいかなる情報に触れるかによって、大きく変わってくるということ

問(五)

傍線部(3)「いちどしか生きない人生」とありますが、これは「人生」のどのような性格を表わす言葉ですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 12

- 1 危険性
- 2 永続性
- 3 一面性
- 4 一回性
- 5 固有性

問(六)

傍線部(4)「いい情報だけをじょうずにえらぶ」とありますが、そのために重要なことは何だと筆者は述べていますか。ふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 13

- 1 批評家の意見をうのみにしないこと
- 2 批判的なものの見方を身につけること
- 3 新聞、雑誌などを定期購読すること
- 4 低俗な番組を見ずに有為に時を過ごすこと
- 5 放送を録画してできるだけ多くの情報を集めること

問(七) 傍線部(5)「ずっと危険率はすくない」とありますが、筆者はどのようなことを懸念しているのですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- 1 批評家の意見をうのみにして、自分に合わない本を選んでしまうこと
- 2 毎日おそろしいスピードで次々に新刊書が刊行されること
- 3 独自の判断で本選びをして、よくない本を選んでしまうこと
- 4 専門の読書家である批評家であっても、時には間違うことがあること
- 5 予備知識をつけようとして、手あたりしだいに本を買い込むこと

問(八) 傍線部(6)「それは、友人たちだ」とありますが、筆者は「友人」の役割についてどのように考えていますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

15

- 1 「友人」は身近な優れた相談相手であり、情報選択のさい批評家の代わりとなって助けてくれる。
- 2 「友人」は世界中のあらゆる問題について情報を集めていて、職業的批評家以上に批評家としての務めを果たしてくれる。
- 3 「友人」は批評家として、映画であれ本であれ、世間で評判になっている人気のある作品だけを選び出してくれる。
- 4 「友人」は専門の批評家を超える情報選択能力を備えており、批評家以上に正確な情報提供者である。
- 5 「友人」は映画や読書についての良き相談相手であるが、本来はもっと大切な問題についての相談役であるべきだ。

問(九) 本文から次の文が脱落しています。本文中の(1)～(5)のどこに戻すのがふさわしいですか。後群のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

われわれは途方に暮れるのみなのである。

- 1 (1)
- 2 (2)
- 3 (3)
- 4 (4)
- 5 (5)

問(十)

本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- 1 底抜けの容量を持ちながら人間が情報を吸収しきれないのは、情報吸収に伴う物理的困難を克服しようとしなからだ。
- 2 いくら情報選択能力を身につけても、生まれつき具わった才能の差を克服することはできない。
- 3 友人たちと読書会や合評会を開くのもいいが、物事を否定的にとらえる癖がついてしまう恐れがある。
- 4 現代社会において、批評はよい情報と悪い情報を選び分けるフィルターのような役割を担っている。
- 5 批評家の意見と自分の意見が再三食い違っていると、人は批評家よりも友人の意見に耳を傾けるようになる。

設問は以上です。